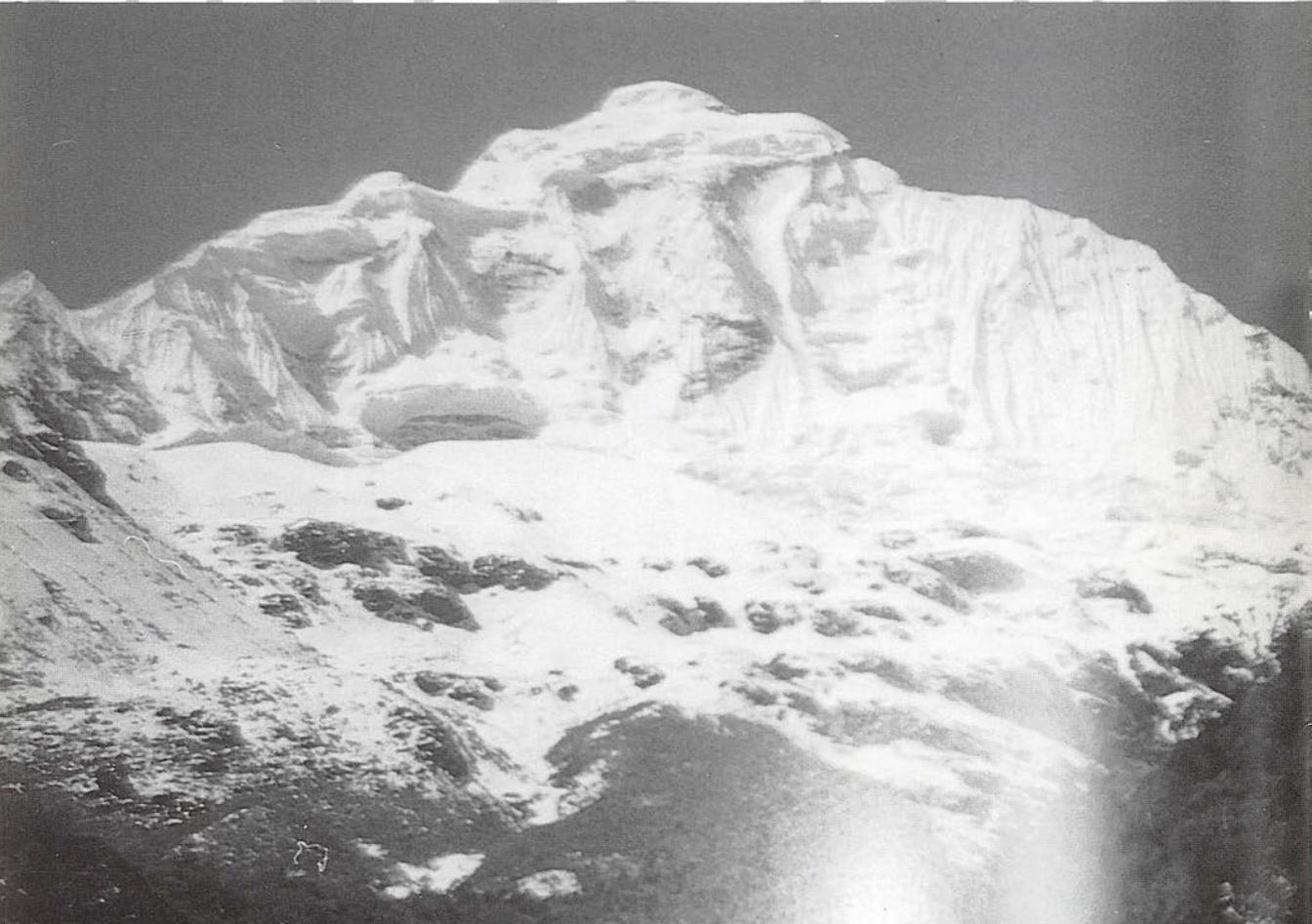


HIMALAYA

ヒマラヤ

No. 293



1996 APRIL



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

合同登山隊員募集のお知らせ

ヤンラ・カンリ (7,429m ガネッシュ・ヒマール主峰)

かねてより募集中の「合同登山」の目標の山は、ガネッシュ・ヒマール主峰（中国名は、央然康日、ヤンラ・カンリ 7,429m）と決まりました。

ヤンラ・カンリは、中国とネパールの国境に位置するこの山群の主峰です。初登頂も、ネパール側から1955年10月24日に、著名な登山家であるレイモン・ランベール、クロード・コーガン（女性）らによってなされています。

今回は、中国領であるチベット側から登山しようとするものです。登山基地である「吉隆」はアイガー北壁の初登頂であるハインリヒ・ハラート、ペーター・アウフシュナイターが、インドの収容所を脱走し、ラサへ逃げる途中、長期間滞在したことでも知られる場所です。

情報の少ない山を承知で、静かな山を舞台に異文化の民族との合同登山を希望する真摯な岳人の

応募を期待します。

記

1. 登山予定: 1997年3月～5月の約60日間（具体的には応募者間で決定します）
2. 目標の山: ヤンラ・カンリ (7,429m・ガネッシュ・ヒマール主峰) を中国領から。
3. 個人負担金予定額: 100万円
4. 募集人員: 7名
5. 資格: 冬山5年以上の経験者。合同登山であり、過去の登山記録が少いなど、情報の少い山を目標にしていることをよく理解し、親族の了解が得られて、隊務を分担して予備活動に参加出来る真摯な岳人。契約書を提出できる人。
6. 申し込み〆切り: 5月末日、なお、3月末で予定者が5名に満たない場合は、登山隊派遣の有無について協議する。(P22に概念図)

表紙写真

ガウリサンカール (7,134m) の北面。中国側ではツェリンマと呼ぶ。ラプチェ・カンの西稜から見た写真が報告書にあるが、これは4,500m地点からみた北面。もちろん中国側からは未踏である。

ヒマラヤ No.293

1. PEOPLE JURI MOISEEV
2. アメリカEEP1995年の報告-EVEREST ENVIRONMENTAL PROJECT-
4. 第17回インド・ヒマラヤ会議報告
11. 中高年? ヒマラヤ流れ旅(3) 雪に阻まれたランタン/ガネッシュ氷河 阿部淳
16. ヒマラヤ・ニュース <地域ニュース・トピックス・Books>
18. 中国の若者たちにも登山熱が...
19. ヒマラヤの山荘一 風来坊
20. パキスタン登山に朗報(推せん状不用)
20. インド・ヒマラヤ登山手続き
23. 1996年イドの祝祭日
24. 寸感・事務局日誌

一般八王子で開催された日山協主催の「海外登山研究会」は、カンチェンジュンガの初登頂40周年を記念して「カンチ」関係を中心に行われた。

この席に89年旧ソビエト隊から、カズベク・ワリエフ氏と、ユーリー・モイセーエフ氏が招待された。2人は、現在の「カザフ共和国」の所属。

カザフは、中国の新疆ウイグル自治区の西隣りにあり、面積271.7万km²（日本の約7.2倍）、人口1,654万人（約7.4分の一）。1930年に創られた共和国で人口の約40%は、ロシア人が占めている。

カザフの東には、天山山脈がありポベダ（7,349m）やハン・テングリ（7,010m）をはじめとする高峰がある。このため登山世界では、旧ロシアのクライマー中でも重要な位置を占めてきた。

その牽引者の役割を果たしてきたのが、ボリス・ストゥージェン氏である。旧ソ連の7千m峰に29回登頂した氏のプロフィールは、ヒマラヤ222号で紹介した。また、旧ソ連がネパール・ヒマラヤに進出した1982年以後の登山で、カザフの中心的な役割を担ったのが、カズベク・ワリエフ氏であり氏のプロフィールは、ヒマラヤ221号に詳しい。

一方、ユーリー・モイセーエフ氏は、ワリエフ氏とチェコのゾルターン・テムヤーンと3人で、1988年秋にダウラギリ I 峰のブチャール稜を10日間のアルパイン・スタイルで完登したクライマーである。

モイセーエフ氏の2回目のネパールは、89年のカンチェンジュンガの縦走であった。カンチ縦走の目論見は、81年H A J隊によって初めて実施されたが、主峰とヤルン・カンの頂上で涙をのんだ。次いで84年にJ A C隊が、南峰から中央峰をつないだものの、主峰は大きく下降してグレート・シエルフからの登頂となってしまった。

この山塊の4つの八千m峰を、完全縦走したのが旧ソ連隊であった。同隊は29名と映画班5名で構成されていたが、その内の9名がカザフからの参加であった。この登山で、モイセーエフ氏は、無酸素で主峰に登頂したものの、縦走隊員には選



ばれなかった。彼らによれば、この時には、メンバーの誰もが10人の縦走隊に選ばれる資格はあったと云う。結局、旧ソ連の各地域から参加しているため、それぞれの地域の代表として10人が決められたようだ。

3回目は、91年のダウラギリ I 西壁であった。この登攀はローツェ南壁より困難だったと語る。

ワリエフ氏もモイセーエフ氏も、現在では、カザフのチームの指導・運営を担当する側になっているが、どこの国の岳人も同じで、カザフでも若い人は、すぐに高峰に行きたがるということ。モイセーエフ氏自身は、天山やパミールでの登山を15年間経験した後で初めてダウラギリに挑戦した。その経験から若い岳人には、天山やパミールで6～7年登山を経験してから、8千m峰へ挑戦することを奨めている。そして自分自身の経験にあった山登りを目指すべきだと云う。

カザフの遠征隊も、かつてのように国からお金と指導者が来て、自分たちは登ることだけを考えればいい時代から、現在では、自分たちでお金を作り、チームを作らなければならなくなった。

この2～3年後には、マカルー、チョー・オユーなどの登山を計画しているが、是非共「合同」隊を組んで資金面の問題を解決したいと話す。

毎日夕方には10～15kmのランニングを行い、週末には4,000m級の山々を登り、夏には天山やパミールの7,000m級の高峰登山を実践してきた彼らにも、確実に時代の流れが押し寄せているようだ。

アメリカ EEP 1995年の報告

会員の皆様、如何お過しですか。おかげ様で今年もEEPにとって充実した1年となりました。飛躍的な前進こそなかったものの「大きな1歩で誤るより、小さな1歩を確実に」という信念に沿った活動を続けることができました。

本年より、自然保護分野での傑出した功績に対する援助金制度を設けました。EEPの基金（皆様のご支援により現在年間総額21,000ドルに達しています）より生じる利益内で、援助金が捻出されます。

クレイグ・フォークナー氏の尽力で、EEPもついにインターネットのホームページに加わりました。アドレスは、

<http://www.boms.com/everest/eephome.html>.

です。改めて、フォークナー氏のお力添えに感謝します。尚、ボブ・マッコネール気付けのeメールでもご利用頂けます。

102412.2564@Compuserve.com.

大学生のポール・ラチャペルは、インターネットを探索中に我々の事を知り、今夏ネパールのクンブ谷で実施された廃物処理の研究にボランティアとして参加してくれました。因みに1994年のサガルマタ環境保護遠征の際、ボブがソーラートイレットの実験を行ったのもこの谷です。ポールが作成した25ページに及ぶレポートは、我々のアドレスにアクセスすれば入手できます。ヒマラヤ関係の研究レポートは数多く出ていますが、これ程広範囲に深い理解が認められる優秀なレポートは滅多にありません。ポールには500ドルの援助金が授与されました。彼はさらに、インターネットにフォーラムを設立、山々の自然を人間の排泄物から守る方法についての討論の場を提供しています。アドレスは、

<http://www.uvm.edu~plachape.toilets.html>.

どうぞあなたの名案をボールに送って下さい。

（ソーラー・トイレットのテスト・モデルを使った実験では、期待していた程の成果がまだ上がっていません）〔訳注：ヒマラヤ268号&282号参照〕チベットのチョモランマ自然保護会にも1,000ドルの援助金を出しました。1990年に我々が贈ったトラックのメンテナンスを継続し、この春もベースキャンプからゴミを運びおろした等がその理由です。

EEPの共同設立メンバーであるボブ・マッコネールは、マウテン・フォーラム設立の為に北アメリカ代表（2名）の一人に選ばれました。このフォーラムは1992年リオで開催された地球サミットで発案されました。サミットでは「アジェンダ21」—21世紀にむけた環境保護に関する予定案が参加者によって提案されました。「アジェンダ21」第13章が山に関する章で、そこには山の自然保護問題を解決する為には非政府組織（NGOs）の協力も必要である事がうたわれています。マウンテン・フォーラムは、NGOs及び山に関心を持っている世界中の人々にオープンな組織作りを目指しています。イベント開催他様々な情報交換の場として、又、自然環境を脅かす開発問題を話し合う場としてどんどん利用して頂きたいと思います。このフォーラムは、山にかかわるあらゆる人々を数多く結集させる可能性を秘めています。アメリカ開発推進委員会との直接連絡網も設けられる予定です。

EEPのメンバー、トム・リーチは、6月にチベット「紙の道」より帰国しました。彼率いる調査隊は、現在も古くから伝わる紙作り（チベット産Stllera Chamejasmaeを原料として使用）を守り続ける多くの人々に出会いました。また、ラサ〜ロンブク間の地域では、紙作りの復興と同様にゴミのリサイクルにも高い関心がよせられている

ことが分かりました。〔訳注:ヒマラヤ282号参照〕

前回の号でお知らせした南極遠征は、ツアー会社を介してヘリコプターのサポート手配ができなかった為、一年延期になりました。

遠征隊は、国立科学財団（NSF）の極地プログラムに援助金を申し込みました。NSFはこの隊の能力と目的を高く買ってくれたようです。もし援助金が出れば、ヘリコプターその他の物資補給はNSFが受け持ってくれることになります。この隊が、南極冒険旅行や観光ツアーの正しいあり方を示す遠征隊になると、我々は信じています。そうなれば、他の有名な観光地のように押し寄せる人々によって汚されるがままになってしまう様なケースから、南極を守る事ができるでしょう。自然の美しさやその資源を保護する為には、清掃隊よりもまず、ゴミや汚物を捨てずに持ち帰る隊の方が望ましいのは、山も南極も同じです。

今春、ヒマラヤ環境トラスト（HET）理事長、キャプテン・モハン・コーリー氏より「お互いのメール・リストを交換しませんか」という提案がありました。HETは、エドモンド・ヒラリー、クリス・ボニントン、ラインホルト・メスナー、ジュンコ・タベイ、モーリス・エルゾグ各氏の名も並ぶ、恐らく世界最高の登山家組織でしょう。この案について十分な話し合いが行われる以前に早速、コーリー氏からHETのメール・リストが送られてきました。その中には、既にEEPに加盟しているメンバーも何人か含まれていました。協議の結果、HETとのリスト交換は妥当であるとの結論に達しました。我々のリストは、商業目的での使用や、我々の許可無しでの転用が厳しく禁じられています。もし、この点に関する問題に気付かれた場合は、EEPにご連絡下さい。

小規模の非営利団体ならどこでもそうである様に、我々の組織でも毎日の業務は理事会で選出された役員によって行われています。年1回開催される役員会議では、年間事業の優先順や年間目標が定められます。コロラド州コロラド・スプリングが毎年会議の開催地となっています。会員の方

▼紙を造る風景（1935年南部チベット）



ならどなたでも参加できますので、参加希望の方は本部までご連絡下さい。また、議事録や会計報告書も希望者の方にお送りしています。

何度も繰り返して申し上げますが、我々の活動の全てはボランティアによって支えられています。募金で集められたお金は全額トラスト基金に入れられ、基金によって生み出される利益は、自然保護活動の援助金に当てられます。皆さんがご覧になっているこの会報は、年1回の発行で世界各地に配布されていますが、EEPの最大の収入源になっています。昨年、会報の印刷及び郵便にかかった費用は750ドルでした。近々インターネットのネットワークページにも掲載される予定です。

皆さんのあらゆるご支援に感謝しております。我々全員がこよなく愛する山を守る為に、さらなる良い方法があればいつでも提案して下さい。インターネットで、手紙で、会議で、あらゆる場において皆さんとお会い出来る事を楽しみしております。

（訳：菅原愛里）

〔EEP関係のヒマラヤ誌上での紹介〕

259号（1993/6）チョモランマ清掃1992年

268号（1994/3）ヒマラヤをソーラー・トイレットで美しく

282号（1995/3）ヒマラヤにおけるアメリカ人の運動

同上 紙の道/チベット-1995-

同上 ヒマラヤをソーラー・トイレットで美しく

第17回インド・ヒマラヤ会議報告

1996・1・26～27

新春恒例のインド・ヒマラヤ会議は、今年で第17回を数えたが、群馬県山岳連盟と共催で1月26日～27日の二日間にわたって前橋市で開催された。

会議には、北海道、福岡、高知など全国各地から、95年登山実施隊や96年、97年にインド・ヒマラヤへ出かける登山隊の方など72名が参加された。

星野光群馬岳連会長、遠藤登HAJ会長の挨拶の後、会議日程に入った。

一日程ー

26日

14:20～15:10 「1995年インド・ヒマラヤの総括及び許可取得から出発までの実務ノウ・ハウ」

HAJの山森専務理事から、95年の入山状況、入域事情、通関やビザの変更などについて説明された。

入山事情では、アルナチャル・ヒマラヤのニェギェ・カンサンとガンゴトリ山群のチャウカンバII峰が共にI.M.F隊によって初登頂された話が興味を引いた。

通関関係では、95年4月から別送扱いではなく、一般貨物として扱われることになった件について、実際に実務を担当したHAJ、ヌン登山隊の中川裕登攀リーダーから報告があった。また、昨夏は7月に突然トレッキング許可ピークの登山隊についてもエントリー・ビザが必要になった件も報告された。

15:15～18:20 「1995年登山隊報告」

足利工業大学のラダック南東部サラ・シュワ峰(沖允人氏)、山形海外交流協会によるガルワールの未踏峰マナ北西峰(植松秀之氏)、HAJのカシミール、ヌン峰(中川裕氏)、会津山岳会のヒマチャル、ガングスタン峰(大竹尚子氏)の各報告がスライドやOPをまじえて行われた。

夜は、夕食をまじえて懇談会となり、場所を部

屋に移しての二次会も大いに盛り上がり、前橋市長選に立候補している八木原暎明氏もかけつけ夜遅くまで懇談が続いた。

27日

9:00～10:10 「1995年登山報告」

東北大学長峻山の会のシッキム、シニオルチュー(平泉宣氏)、雪と岩の会のガンゴトリ、サトパント峰(尾形好雄氏)の報告がスライドで行われ、又、インドの精通者である尾形氏に質問が数多くとんだ。

10:30～11:00 「事故と環境対策について」

HAJ山森専務理事から、ヒマラヤの環境保護のためのテイクイン、テイクアウトの実際について話があり、事故時には登山実施の山のある場所の行政地区名などについても必要となってくるので必ず確認するよう説明があった。尚、「事故と環境対研修会」が、HAJの主催で4月7日に実施されるので、是非参加して頂きたいとアナウンスされた。

これで予定の会議日程を終了、HAJ小島理事の挨拶で閉会となった。なお、引き続き同所において96年隊の情報交換が行われた。



▲歓迎の挨拶をする星野光群馬岳連会長

インド・ヒマラヤ1995年

入山状況

インド登山財団（IMF）によれば、1995年にインド・ヒマラヤを訪れた外国登山隊は66隊で、前年に比べて7隊の増加であった。

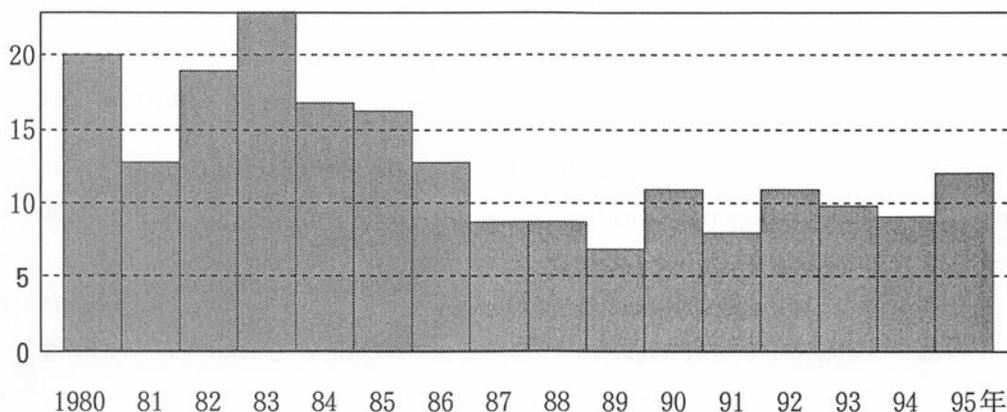
国別では、日本（日印合同隊1隊を含む）とイギリスが12隊、次いで韓国とスペインが7隊、オーストリア6隊、イタリア4隊、フランス、ドイツが3隊、チェコ、ニュージーランド、アメリカが2隊、シンガポール、カナダ、ポーランド、フランス/カナダ合同、オーストリア/フランス合同、インド/スウェーデン/アメリカ合同が各一隊となっている。

日本は12隊と、ほぼ例年並みであった。1980年以降の日本隊の入山推移については下のグラフを参照されたい。

一方、インド隊の方は68隊と、前年に比べて30隊近く減少した。尤もインド隊の入山状況は、IMFでもよく把握できておらず、現時点では定かでない。

外国隊の入山状況を地域別に見てみると、UP州が36隊と半数以上を占め、HP州が4隊、J&K州が19隊、シッキム州が4隊、不明（無名峰等）3隊となっている。リストから洩れているが、IMF隊がアルナチャル・プラデシュ州のニュギェ・カンサンと、ガンゴトリ山群のチャウカンバII峰に初登頂している。

日本隊の入山推移



〔通関〕一般免除の部21の和訳

登山用具、衣類、食料、支給品（アルコール類、巻きタバコ、刻みタバコは含まず）、医療品類（器具・薬）

(1) この項で言う「遠征隊荷」とは、遠征隊によって輸入されたもので、基本的にインドでの遠征中に使用されるものでなければならない。

(2) (1)で言う「遠征隊」とは、ニューデリーのインド登山財団（以下IMF）によって許可された隊を指す。遠征隊が何らかの物を輸入する場合、輸入手続き時にIMF発行の証明書を関税局の徴税補佐官に提出する。証明書の大意は、以下。

(a) 当遠征隊は、IMFの許可を得た遠征隊である。

(b) IMFは、当遠征隊の出入国許可証をインド政府より受領している。

(c) 当遠征隊によって輸入された物品は、当遠征隊の主張通り、遠征に必要とされるものである。

(3) 遠征隊は、ニューデリーのIMFにて保証書を受け取る。保証書の大意は、以下。

(a) 輸入された隊荷（次のものは除く：インドでの遠征期間中の消耗品又は、紛失品。先に触れた財務省（国税局）の承認に基づき、IMFによって購入された登山用具）は、輸入した日より数えて6ヶ月以内、または、国税局の徴税補佐官が許可した延長期間内に再輸出されるものである。

(b) (a)で述べた再輸出ができなかった場合は、控除されていた税金を支払わなければならない。

1995年インド隊の記録

山名	標高	隊名	隊長	期間	結果
Hanuman Tibba- I	5,928	Motherland Adventure Club	D. Mishra	4/25~5/16	
Tinchenkhang	6,010	Himalayan Nature & Adventure Foundation	Sujit Seal	4/30~5/27	
Abi Gamin	7,355	14th Btt. Jat Regiment	Sonam Takpa	5/25~	○
Kedar Dome	6,830	Patajatra, Budge Budge	D. Mukherjee	5/10~	
Thelu Koteswar	6,000 6,035	Bhramanik Burdwan	Bidyut Roy	5/15~6/15	
Kalanag Baraskha	6,387 5,530	Institute of Exploration	S. Banerjee	5/15~6/14	
Mana Parbat- I - II	6,794 6,771	ANSA Trekkers & Mountaineers	Vijay J. Hegde	5/1~6/14	○
Kedar Dome	6,830	Haryana Civil Service Mountaineering & Trekking Ass.	Rajiv Midha	5/25~6/24	
Jogin- I - II	6,456 6,116	CRPF,	S.S.Sandu	5/1~5/30	
Jogin- I - II	6,456 6,116	Institute of Climbers & Nature Lovers	B.B.Mukhoty	5/20~6/10	
Kedarnath Kedar Dome	6,969 6,830	Pune Venture	B.S.Anant	5/15~6/14	
Sudarshan Parbat	6,507	Mountaineers & Climbers Circle	S. Ganguly	5/1~5/30	
Rudugaira	5,819	Secretary, Morya Giribhraman Sanstha	Arn D.Pote	5/15~6/14	
Jaonli	6,632	NCC Boys	K.K.Chopra	5/16~6/15	
Trisul- II	6,690	The Doon School	S.C.Biala	5/25~6/20	
Kamet Abi Gamin	7,756 7,355	3/11 Gorkha Rifles		5/10~5/30	
Baljuri	5,922	OSD(Adventure) Hill Area	R. Bhardwaj	5/20~6/18	
Thal dakurmi- I Kula Kangri	6,666 6,546	R.Bhattacharjee, Directorate of Revenue Intelligence	R. Bhattacharjee	5 ~ 6	
Banderpunch	6,320	Lal Bahadur Shastri National Academy	S.S.Rana	5/31~6/22	
Suli Top	6,300	Saad Mountaineering Club	Rajan Laxman	6/15~7/15	
Kedarnath	6,968	Valiant Mountaineering Club	P. Bodhane	6/1~6/30	
Satopanth	7,075	Indaian Petrochemicals Co.Ltd.	R.Z.Rana	6/15~7/14	
Mandani Yeonbuk	6,193 5,953	Rocks & Snow	Iknus Ahmed	6/15~7/14	
Bhangirathi- II	6,513	Mountain Quest of Calcutta	Sanat Kumar Pal	6/15~7/14	
Phawararang Phawararang South Unnamed Peak	6,349 6,172 6,032	Diganta, Calcutta	A. Kumar Roy Chowdhury	6/1~6/30	
Trisul	7,120	Snowland Mountaineers Assembly		7/13~8/14	
Unnamed Peak	6,318 6,248	Sahagiri Trekkers	Rajesh V. Gadgil	7/15~8/30	

山名	標高	隊名	隊長	期間	結果
Chaukhamba-II	7,068	Nehru Institute of Mountaineering	M.P.Yadav	7/10~9/6	◎ ◎ ◎
" - I	7,138				
Unnamed Peak	6,736	Girivihar	Vidyadhar Joshi	7/15~8/15	
Menthosa	6,443				
Thalda Kurmi- I	6,666	The Mountaineers	Harish Kapdia	7/1~8/15	
- II	6,622				
Kula	6,546				
Akela Killa (CB-46)	5,944	Shailbrhamar	Satish K. Borse	7/25~8/24	
Tombu (CB-48)	5,996				
Jori (CB-49)	6,096				
Ramjak	6,318	Rock Climbing School	Rajani Rakshit	7/25~8/20	
Unnamed Peak	6,248				
Saser Kangri- I	7,672	BSF.	S.C.Negi	7/10~8/25	× × ×
- II	7,265				
- III	7,495				
Bhagirathi- II	6,512	New Horizons	M. Palayam	7/1~7/20	
Ratang	6,283	Pinnacle Club	A.B.Kulkarni	7/15~8/30	
Unnamed Peak	6,311				
(Gyundi Glacier)	6,187				
	6,050				
Fluted	6,122	Explorers Association of Gopiballavpurm	Lily Kundu	7/15~8/15	
Trans Himalayan peak to peak		Sikhar Mountaineering Club	S. Roychoudhry	7/20~1/10	
Deo Tibba	6,001	Himalayan Mountaineering Aaociation	Ajit Naskar	7/16~8/15	
Kedar Dome	6,830	The Himalayan Hikers	S.P.Chakrabaty	8/15~9/14	
Mukut Parbat	6,939	Para Regiment Training Centre	S.V.Yadav	8/15~9/30	
CB-12	6,248	Trekking Circle	T.Kumar.Bhttcharj ee	8/1~8/30	
CB-13	6,264				
Kalindi	6,103	Nawabgandj Mountain Lovers	N.C.Pramanick	8/15~9/14	
Bhanoti	5,645	Himalayatri PO Tribeni	G. Chandra Saha	8/15~9/10	
Hanuman Tibba- I	5,928	Shahid Raji Jadhav Memrial Foundation	Jeevan Chandra	8/1~8/30	
Manali	5,669				
Makar Beh	6,069				
Parcha Kangri	6,065	Howrah Mountaineering Club	Naresh Sabharwal	8/1~8/30	
Gulap Kangri	5,900				
CB-12	6,248	Nandaq Devi Foundation	Swpan Majumdar	8/20~9/19	
Kamet	7,756	Garhwal Scouts,CO 56 APO		8/20~9/19	
Rudgaira	5,819	Uttarpara Adventure Lovers	Amulya Sen	8/15~9/14	
Maiktoli	6,803	Mountain Lovers Ass.	Lavraj Singh	8/25~9/24	○
Kalindi	6,103	Youth Adventure Club	Lavraj Singh	8/1~8/30	
Avalnche	6,352				
Unnamed Peak	6,161				
Gangotri-III	6,577	Nature Club "Saroj" Surat	Anand P.Vaidya	8/15~9/14	
Menthosa	6,443	South Calcutta Trekkers	Dipen Samanta	8/16~9/15	

山名	標高	隊名	隊長	期間	結果
Unnamed Peak (Barasigri Gl.)	6,163 6,100 5,720	Mountaineers & Trekkers, Unit,PO.Hindustan Cables	B.K.Chakrabaty	8/21~9/21	
Geling Runse Gyagar	6,100 6,175 6,400	Mountaineer's Association of Krishnanagar	B.S.Roy	8/15~9/15	
Shiva	6,142	Climber's Circle	Anjan Chowdhuly	8/1~8/30	
Fluted	6,122	Kanchrapara Quest Advanture	R.N.Halder	8/1~8/30	
Baljuri Thalkot	5,922 6,099	Traveler's Guild	Debasis Nath	8/15~9/14	
Thelu Koteshwar Saifee	6,000 6,035 6,167	Santragachi Shaiddo Sathi	Saumojit Roy	8/15~9/14	
Jogin- II -III	6,342 6,116	Durgapur Mountineer's Ass.	Arvind Patel	8/25~9/25	
Tanak	5,992	Kashmir Mountaineering Team	S.Hussain Mir	8/12~8/29	
Jogin- I -II -III	6,456 6,342 6,116	Explorer's	Pranay Bordoloi	8/1~8/30	
Mashiro Kangri	5,367	Himlayan Enjoye's Ass.	K. Baneljee	8/14~9/9	
Chow Chow Kang Nelda - I & II	6,304 6,264	Ordnance Factory Trekker's Metal & Stool Factory	Sajal Kr.Kundu	8/28~9/26	
Gyah	6,794	Durga Centre	Haripal Dhillon	8/7~9/20	×
Bhagirathi- I -II	6,856 6,512	Assam Adventure Foundation	Jayanta Kr. Roy	8/1~8/30	
Unnamed Peak (Srikanta-gangotri)	6,023 6,014	Parvataohi	Ranvir Singh	8/27~9/25	
Thelu Koteshwar	6,000 6,035	Himpathik	Ujial Chakrabat	5/1~5/30	

1996年 インドヒマラヤ日本隊

山名	標高	派遣母体	隊長	人数	期間
ヌン 6,803m (ガンゴトリ)	7,135	栃木県南地区山岳協議会 北九州ヒマラヤ委員会	梅山 義弘 成末 洋介	12 5	7/21~8/29
チャウチャウ・ カン・ニルダ- I & -II	6,303	群馬高体連	大沢 清	17	7/23~8/20
ラダッキー	5,342	浜松山の会フレンズ	高野 幸夫	1	8/1~8/21
デオ・チバ	6,001	登稜会	柳 穰	1	8月初~末
ガンゴトリ- I	6,672	帯広わらじの会	森実 裕	6	9~10月
CB-14	6,078	東京学芸大学	村上 芳男	3	7/25~8/29
メルー	6,672	松本クライミング メイト	馬目 弘仁		9/1~10/12
ストック・カンリ	6,153	鳥取県山岳協会	山本サトル		8/1~8/7
ホワイト・セイル	6,446	JR関東山岳連盟	桜沢善之助	6	
KR-4	6,340	栃木県庁谷峰会	辻岡 幹夫	8	7/27~8/23

1995年外国隊の記録

山名	標高	隊名	隊長	期間	結果
(U. P)					
ケダルナート	6,968	韓国	Jong Moon Kim	3/28~4/25	
ケダルドーム	6,830	フランス/カナダ	Bernard Lecave	4/18~5/18	
ナンダ・デヴィ東峰	7,434	チェコ	Unerka Josef	4/22~5/30	×
シヴリン	6,543	ニュージーランド	N. Lee Cradock	4/26~5/28	
トレイ・サガール	6,904	韓国	Choi Ho	4/28~6/2	
サトパント	7,075	オーストリア	Manfred Ehrengnrber	5/16~6/15	
ティルスリ西峰	7,075	イギリス	Roger Payne	5/20~6/20	
シヴリン	6,543	オーストリア	Wolfgang Morti	6/17~7/14	
サトパント	7,075	スペイン	Josqin Guridi	6/28~7/25	
トリスル-I	7,120	スペイン	Laradojautie Esteben	8/2~8/26	×
ケダルドーム	6,830	スペイン	Julio Perez Caballero	8/9~9/4	
シヴリン	6,543	韓国	Byoungtae Kim	8/18~9/18	
シヴリン	6,543	インド/スウェーデン	Tevir Singh Khurna	8/20~9/12	
バギラティ-II	6,512	韓国	Jeung Sick Croi	8/24~9/28	
チャウカンバ-II	7,068	韓国	Jeong Jae Young	8/25~9/30	×
シヴリン	6,543	韓国	Lee Jong Young	8/28~9/21	
トレイサガール ジョギン-II	6,904 6,342	ドイツ	Nadersdorfer Walter	8/30~10/16	
シヴリン バギラティ-III	6,543 6,454	イギリス	Andy Newton	9/1~10/6	
バギラティ-IV	5,972	アメリカ		9/5~10/11	
バギラティ-III	6,454	カナダ	G.D.Stafam	9/8~10/13	
チャウカンバ-I	7,138	イギリス	Simon Yearsley	9/8~10/14	×
シヴリン	6,543	韓国	Jung	9/8~9/27	
ブリクパント	6,772	スペイン	E.G.Telletxed	9/6~10/9	○
ナンダ・コット ラムチー	6,861 5,662	イギリス	M.E.Moran	9/10~10/7	○
シヴリン バギラティ-III	6,543 6,454	チェコ	Peter Mejtmanek	9/11~10/12	○
パンチチュリ-V	6,333	ニュージーランド	J.M.Nenkervis	9/27~10/7	◎
ジョギン-I	6,456	ポーランド	Mariusz Kopczynshi	9/15~10/15	
サトパント	7,075	フランス	Jeauvir Corinne	9/20~10/12	
シヴリン	6,543	スペイン	R.P.Slanco	9/21~10/10	
バギラティ-II	6,512	イタリア	Bahet Romona	9/22~10/12	
ラスパ・ドゥラ	5,913	アメリカ	Mark David Johnson	5/7~6/6	
ジョギン-I	6,456	ドイツ	Uwe Braun	9/26~10/25	

山名	標高	隊名	隊長	期間	結果
マナ北西峰 (シヴァ)	7,092	山形海外交流/ITBP	植松秀之	8/19	5名初登頂
サトパント (J&K)	7,075	雪と岩の会	尾形好雄	9/13	2名登頂
ヌン	7,135	オーストリア/仏	Welcar Khezicea	6/20~7/21	
クン	7,077	スペイン	Cirera Martine	7/4~7/29	
カン・ユセー	6,400	イギリス	D.G.Hughes	7/11~8/3	
カン・ユセー	6,400	イギリス	N.H.Parks	7/18~8/11	
ヌン	7,135	オーストリア	Kepellor Karl	7/20~8/9	
クン	7,077	フランス	Gerard Estenne	7/23~8/19	
ストック・カンリ	6,153	イギリス	B.J.Brown	7/21~8/30	
ピナクル・ピーク クン	6,930 7,077	イタリア		7/29~8/24	
クン東稜	7,077	フランス	Males J.F.	7/31~8/28	
Z 2 Unnamed Peak	6,175 6,120	イタリア	Giorgio Malluci	7/30~9/4	
カン・ユセー	6,400	イギリス	Michael Ratty	8/3~8/28	
ストック・カンリ	6,153	イギリス	Brian Siliangton	8/7~8/23	
クン ストック・カンリ	7,077 6,153	シンガポール	David Lim Yet Lee	8/23~9/26	
ストック・カンリ	6,153	スペイン	Mircia Aguilera	8/7~8/16	
ラダッキー	5,342	イギリス	Emlyn Thomas	6/17~7/14	
ヌン	7,135	HAJ	酒井国光	8/16	登頂
ヌン	7,135	労山	近藤和美	8/16	登頂
ヌン	7,135	どんぐり山の会	小野 毅		×
サラ・シュワ	6,238	足利工業大学	沖 允人	8/16,17	全員初登
ストック・カンリ	6,153		大波久男		
ストック・カンリ (H・P)	6,153	日本山岳会東海支部	鈴木常夫	8/12,13	9名登頂
ガングスタン	6,162	会津山岳会	佐藤澄江	8/11	全員登頂
ガングスタン	6,162	明治大学	高橋和弘	8/28,30	9名登頂
M-VI M-IX (シッキム)	6,279 5,639	イタリア	Barani Giuseppe	7/30~8/25	
テント・ピーク	7,365	オーストリア	Kurt Elbl	4/24~5/26	×
シニオルチャー	6,887	東北大学医学部	片山正文	5/21	2名登頂
シニオルチャー	6,887	オーストリア	Riedhber Josef		×
テント・ピーク (その他)	7,365	ドイツ	Wolfram Schroter	9/21~11/8	×
無名峰	5,719	イギリス	Andrew C. Towgood	5/15~6/7	
無名峰	5,500	イギリス	I.C.C. Foster	7/3~7/29	

雪に阻まれたランタン ガネッシュ 氷河

阿部 淳

(1) カトマンズの1週間

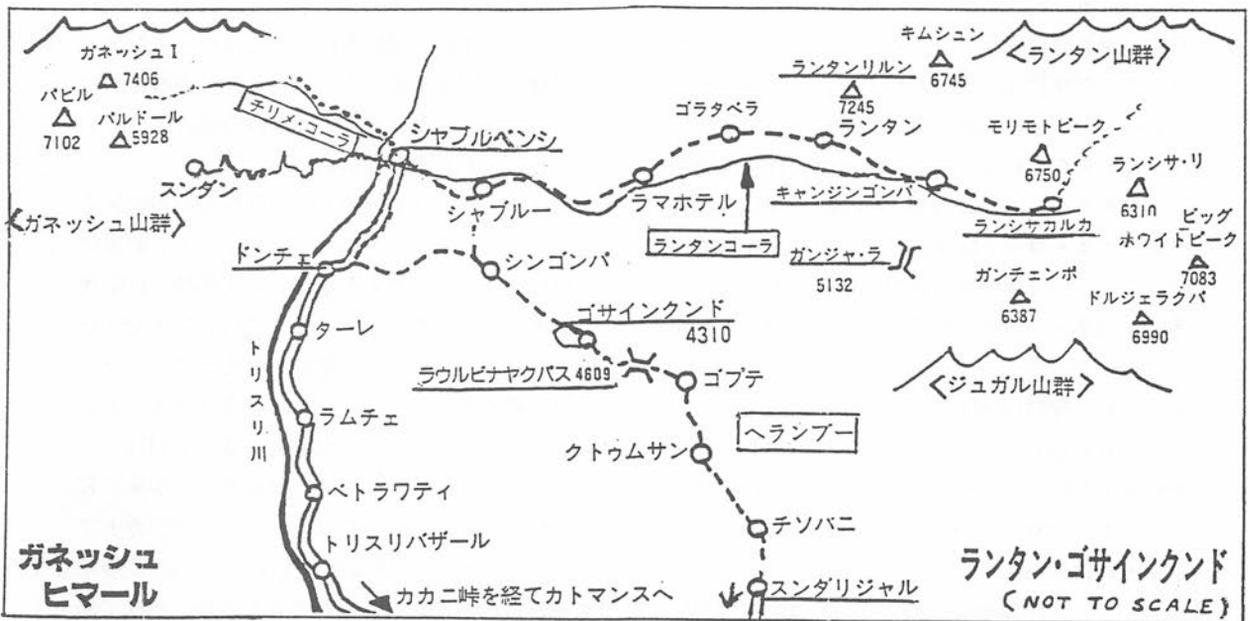
インド・ダウラダールのウデッチー・ハットの想いを胸に3/22、ネパールに戻った。人が違い、世界が変わる。デリー・MAX 31.2℃ (Min17.9)、カトマンズ・30.0℃ (9.8) で夜は凌ぎやすい。懐かしい雑踏の匂いを嗅ぎながら本屋でガイドや地図を探し、ガーデン・ビールを呑みながら次のプランを考える。ガネッシュ、ランタンの氷河、ゴザインクンド～ヘランブーの旅がいい。

かつて、京大山岳部の「報告・第13号」(1966年度)を読んだ。アンナプルナ南峰に初登頂した後“現役4人の貧乏旅行”、A班はランタン谷のガンチェンポに試登して後、(1月)日本人として初めてチリメ・コーラからガネッシュ・ヒマールに接近し、B班はジュガルのタルケガンからランタンのガンジャ・ラへ抜けた。後のヒマラヤニストたちの学生の頃の新鮮なレポートであり、ヘランブーの長い尾根を東の山を眺めながら下る悠長な記録もあった(これは別のチーム?)。こ

の古い記憶が僕をチリメ・コーラとヘランブーに引きつけていた。

単身のパートナーとして技量の確かなシェルパが欲しいのでCosmo Trekの天津三子社長を訪れた。ご主人の昭宣氏とは昔、札幌でお会いして以来の知人だし、昨年秋には札岳連冬期ランタンリルのロイヤルティを届けに事務所を訪れた。僕の仮プランでは、自己費用を除いてコスモ払いは(シェルパ、コック、ポーター2名;食料、寝袋・テントのレンタル)ランタン・エリア28日で約12万円、カンジロバ20日で15万円強で収まりそうである。

3/28、ダワ・シェルパ君と対面。“英語の通じるシェルパ”を依頼したのだが日本語も達者で人物も実直そう、コック上がりだが登山経験もあるので決めた。ガネッシュは未経験、ランタンは7年ぶりと言う。クレジット・Cからキャッシングは、ビザ・マスターはDurbar NargのNabil Bank (Nepal Arab Bank)、アメックスはラニボ



の北側JamalのAmex Travel Surviveでできた。食料買い出しとレンタル品を揃えて、出発OK。

(2) まだ雪多いランタン・コーラ

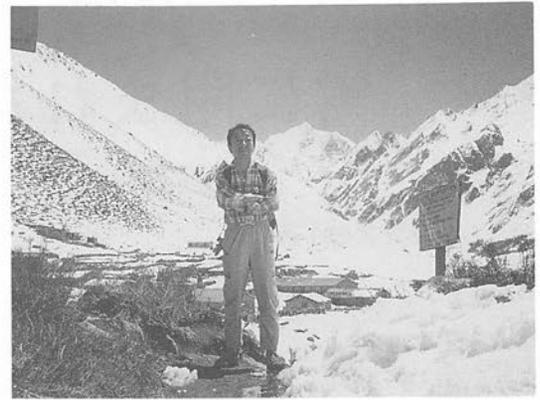
・3/20. 朝ダワ君の迎えて長距離バスパークへ行く。バスヒ人でごった返している。シャブルベンシ行きバスの横で、西欧人女性が激しくしゃくり上げて泣いており、ご主人が屋根の荷台からザックを降ろしていた。ポーチからパスポートや財布などを丸ごとスラれたと言う。荷を上げる時かバスに乗り込む時らしい。いま、インドやパキからスリ集団が入って来ているからアベさんも気をつけて、と言う。ここで頑健そうなコックのセイラ君に会う。7時出発。北へ1時間、朝霞みの中にランタン〜ガネッシュ、やがてランタンII、リルンが見え初めてご機嫌！やがて昼下がりには厚い雲が広がり、続いてカミナリ、雨となる。16時、大きい宿場のドンチェ。ここで3人連れのポーターが乗り込み雇ってくれと言う。18時、終点のシャブルベンシ。川べりのフレンドリー・GHに泊まる。ガネッシュ帰りの西欧人グループの話では、沢は時に胸までの雪で奥に入れず退却したと言う。降る度に積もるとか。ガネッシュの時間稼ぎに、先にランタンに入ることにした。やっとトレッキングができる！

・3/30. ケロシンを買い足して出発、ランタン谷沿いに歩く。11時は彼等の朝食。長くて待ちきれず、ダワ君は当面ポーター管理なので独りで先に行く。ダワ君は時折追いつくが、このパターンがずーっと後々まで続く事になった。1462mから上がり下りを入れずに高差1000mの登り、7時間でラマホテル村(2470m)。シェルパー行現れず、ジャングル・ロッジに決める。この村は5軒すべてドミトリー(相部屋か布の仕切り)だ。この奥さんは2〜3日來の病気で明日カトマンズに連れて行くと言う。

・3/31. 今日は1000mの登り、7時間でランタン村(3450m)。ランタンビュー・ホテル。少し手前から左にツェルロ・リ(5033m)、右にガンチェンポ(6387m)が見えだし、贅沢なビスタリウォークだった。

・4/1. 3時間半でキャンジン・ゴンパ(3850

▼雪のキャンジン・ゴンパ



m)、奥の小さいドミトリー、キムジュン・グレンジャー・ロッジ(60Rs)。360度、雪の山。ゴザインクンド方向の長い尾根も下から真っ白だ。村の人が“この先、膝まで埋まりランシサへは行けない。ドンキーなら半日往復が可能なので、\$45(¥4000)でどうか”と言う。いいよ、乗り物は。・4/2. 8時半、ダワ君と谷を詰めに出発したが、少し高度を稼ごうと左の小ピーク(後でキャンジン・リ、4773Pkと知る)のリッジに取り付く。しかし急な雪の斜面となりトラバースして手前の低いタルチョウのピークを目指す。11時50分着。4520mと言うが高度を感じないので本当かどうか。展望良く、ランタン、キムジュン、イエロピーク、ガンチェンポなどの白い山々が眩しい。夜、ロッジでは隣の台所に村の呑んべえ達が集まりだしてギャンブルと言い争いの大騒動、ダワ君は眠っているし、22時遂に“ここはロッジだゾ！客が寝る妨害をするな！と怒鳴りつけ退散させた。この宿の女主人だけで、いつも飲み屋と化しているらしい。とんでもない宿だ。

・4/3. リルン氷河のBC方向へ左岸の岩稜に行く。ズブズブぬかり嵌って歩きにくく、おまけに今日はヨレヨレで力が出ない。3時間、東南稜へ登るルンゼの登路を眺めて、岩稜の端・4250mラインから戻る。夕べに懲りて宿をヒマラヤン・GHに変える。アカンペーだ。個室スタイルで、ランプ・ストーブ付きの食堂もある。100Rs。

・4/4. 休息日。今日も旧ソ連製ヘリが来て客を十数人降ろし、帰りにゴザインクンドやカトマンズまで各\$100で運ぶがどうかと言う。この頃やっと日にちを忘れる事ができたのか、ヘリで帰

る人を見て“お急ぎでご苦労さん”と思う。午後、感じの良い日本人女性2人が来た。日向の広い庭でウォークマンを聴く。ハイドンの弦楽四重奏「ひばり」が周辺の白い山々に響き渡り、「ラルーゴ」はガンチェンポにまで流れ、悲しいまでに美しい。ドボルザークの「アメリカ」が望郷の想いを誘う。

・4/5. 朝、宿の鏡を見て驚いた。黒地の皮膚がマダラに醜く剥けている。それでもランシサへの出がけに、かの日本人女性に「素敵ですネ」と言われて、オジサンもうソノ気になり、すごく頑張る力が湧いてきた。8時半出発、広い流域はもう若芽をはぐくみ、河原はキラキラと雪を反射させて眩しい。ランタン・コーラの早春臆だ。やがて踝までの雪を漕ぎ、12時半、早いが水場のあるヌバマダグ(3,930m)でテント。

・4/6. 朝、昨夕と変わって一面の雪の原、△10℃。雪のブッシュを漕いで1時間半でランシサ・カルカ(4,160m)。真向かいのランシサ・リがドでかく、7千メートルの山波の奥にシシャパンマが一際美しい。この先の氷河は諦めて、山を堪能する。帰りは独りで、春の4,000mの河原をのんびりウォーキング。ところが下流から冷たい烈風が吹上げてきてエンジョイどころでなくなった。15時半、ロッジ。夜、ダワ君と村の若いリトル・ダワ君の“兄弟の契り”の宴が、村人25人で夜中まで続いた。

・4/7. 下る。2人のダワ君は家々に“契り”の挨拶で祝い酒びたり。ラマホテル村へ8時間半。同じロッジは弟とかがヤリクリして、アングリーしどうし。

・4/8. シャルバガオン経由の高巻旧道(2500mライン)を採ったが、眺めは良いものの500mの登降でウンザリ。8時間でやっとシャブルベンシ。H・ポタラ・チベタン。夕方遅くダワ君が両肩を支えられてやってくる。昨夜同様、祝い酒の呑み過ぎだと思ひ叱りつけた。しかし沢の石で滑り転倒して膝を捻挫したと言う。“ガイドとはお客をカバーするのが仕事ダゾ!”

・4/9. 休日。ダワ君を村の診療所に連れて行く。湿布薬を貰い、注射は遠慮させた。村費なので無料。嫌がるダワ君を説得して明日カトマンズ

▼シャブルベンシのコルからガネッシュ山群



へ戻す事にした。夜、同行していたL(リトル)ダワ君の新ガイド就任とダワ君のお別れパーティー。小遣い稼ぎに付いてきた18歳と16歳のチベタン姉妹の俄かポーターもいて賑やかだった。

(3) 雪で退却、ガネッシュ・ヒマール

・4/10. 朝、Lダワ君と改めてガネッシュ・コースの打ち合わせ。8時、何故かいきなり裏の1000mの丘をジグザグに急登、3時間半でチョルテンのコル。雲漂う広大なガネッシュ山群、振り返るとランタンを一望できる。下に、チリメ・コーラも確認できる。軍用道路を西に進む。おかしい、チリメに下らなきゃ。コックも娘ポーターも下の川はもうベムダンコーラだと言う。2時、雷と大粒の雨。Lダワ君に3度目の示唆で詰問する「なぜチリメに下らない!どこへ行く積もりだ!」「まずそのゴンパダンに行くので大丈夫です」「我々の行くのはゴンパガオン!朝、地図を見せてチリメコーラと言っただろう!」「ボク英語の学校に行った事ないから読めないんです。この道しかガネッシュに行った事ないんで」「地図の上で指でチリメ村、ゴンパガオン、タトパニと示して言っただろう!」これで弁解の余地がなくなったのか「済いません、ボク間違えました。明日チリメのタトパニまで下りますからいいですか?」シャァなうだろう、もう!どうやら西のソムダンへ行く積もりだったらしい。3時過ぎ、ドシャ降りの中、斜面のカルカでテント。やれやれ!

・4/11. 戻り気味にやっとコーラへ下り、丸一日のロス。それに昨日からの1000mの上り下りが空しい。ポータコシを行けば良かったのに。6時

間半、大きい土色の温泉・タトパニを過ぎてキャンプ。夕方から夜ずーっと雨となる。4時、星空。
・4/12. 少し行くと遠方にチベット領ガネッシュ7と6千メートル峰がカッコよく見える。どうもLダワ君は21歳で若いせいか、ツッパッる割には経験豊かなコックのセイラ君とポーターを頼りにしているようだ。姉妹ポーターのおきゃんなスニーは側に来て人の肩に寄り掛かったり顔に日焼け止めクリームを塗ったり、じゃれてクスグツクと照れくさい。セイラ君やポーターはからかわれてすごく嬉しそう。3時過ぎ、チュチュンパーガーを過ぎて深い谷間の、雪渓下の河原にキャンプ。今夜は3000mで寒そう。今にくるぞ!と思っていたら雷が鳴りだし夜には大粒のヒョウが降った。

・4/13. 谷狭まり次第に雪に埋まってくる。既にカルカ道は見当たらず急峻な固い雪渓が何本も現れ、一歩足を踏み外せば谷底だ。ポーター2人は素足にスリッパとサンダルで頼りない。娘っ子は、もうムリだから戻りたいと嘆く。協議してポーター達をLダワ君が付き添って安全地帯まで降り戻ってくる事にした。僕とセイラ君はポーターから借りたククリでステップ・カットしながら進み、雪の固いブッシュを漕いでもがく。氷河まで行けなくても、せめてチリメコーラの屈曲部から氷河を取り巻くガネッシュ主峰群を見たい。“まだか、まだか”と小尾根を幾つかトラバースしたが午後1時、セイラ君はなお片道2時間はかかるというので、やっと諦めがついた。タトパニ手前のモルバカルカ(2500m)まで下ってキャンプ。ここは、もう暖かい。

・4/14. 飛ばして7時間半でシャブルベンシ。かくてガネッシュは早めに終わった。冬山装備を何も持たないパーティーとして、トレッキングの限界点に達し、あとはRisky Wayが待つのみである。自分一人ピッケル・アイゼンを持っても無駄なのだから。G-7を背景に皆で記念写真を撮ってサッパリした。ここの宿は村でベストというが、ケチンぼバァさんはお湯をかなだらけ一つしかくれない(あとは水パイプ)

・4/15. ポーター達と別れる。Have Happy Marriage! バスで1時間、500m上部のドンチェ

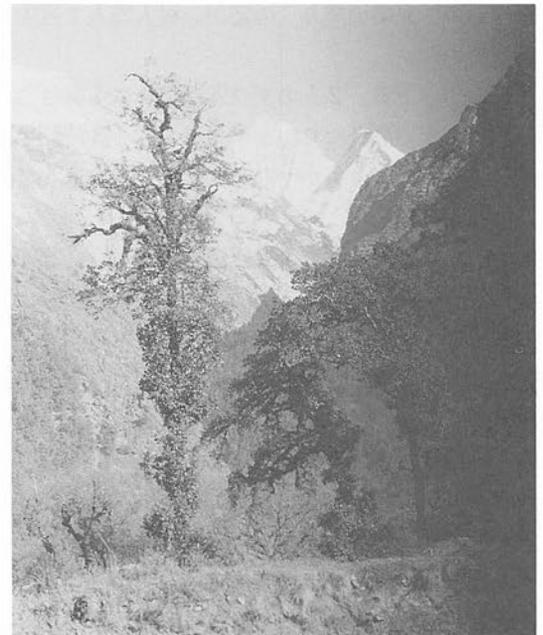
(2080m)。この街ベストのランタン・ビュウ・H。電気あり、トイレ・シャワーも館内にある! やっとホテルの感じだ。ここで日用品はほぼ揃いそう。

(4) ヘランブーの贅沢な道

・4/16. 本物っぽい新ポーター2人を雇ってゴザイクンドへ向かう。2時間もして驚いた、カトマンズに帰ったダワ君が追いかけて来る! 膝の治りは完全ではないが大丈夫だと言う。責任感と信義に厚いシェルパだ(Lダワ君は交替)。正味5時間でシンゴンパ(Chandra-bari Area; 3280m)。ロッジの庭にテントを張る。

・4/17. 少し上で薄雲の中にガネッシュ、ランタンリルンを見る。3時間、雪のチョルテン・ヒルで南側に出ると湖が4つ5つ見え、2時間半でゴザイクンド(4380m)。雪と氷で山も斜面も真っ白だ。2週間もすると溶けると言う。モーニング・ビュウ・ロッジ。寒い夜で夕方から雪となる。

・4/18. 新雪で真っ白。北からの強風で地吹雪が吹き荒れ、冬山である。目出帽とヤッケで武装し、猛吹雪に抗しながら消えた踏み跡をラッセルしながらガムシャラに300m登る。高血圧も膝痛も複式呼吸もあったものではない。1時間半で最高地点ローレンビナヤク峠(4609m)、何も見えない。30分下ると何んと無風のサニーな尾根。7



▲チリメ・コーラからガネッシュ・ヒマールVII峰

時間半、チョプテ (3430m) でキャンプ。

・4/19. 登り2時間半でタレパティ峠 (3597m)。薄けぶりながら、やっとジュガール・ヒマールと初対面ができた。ドルジュ・ラクパ、プルビチャチュウ、下にタルケガン村が光っている。尾根を登り降りしながら、時折振り返って雲間に輝くジュガール・ヒマールを惜しみ、幾重もの幻想的な山の連なりを遠くに望み、深い谷間の村を見下ろし、視界を遥かに超える広大なヒマラヤの自然に感嘆する。8時間、クツムサン (2446m) のロッジの庭にテント。テント荒らしが出ているから要注意との事。

・4/20. 朝、茜色の空にジュガール連山が浮き上がって見えた。8時間でファイナル・ナイト、チソパニ (2194m)。洒落たロッジがあるが満室。ヒマラヤン・GHの部屋には小さいながら初めてソファと椅子があり、晴れていれば窓からジュガールが見えると言う。この村まで道路が伸びており工事用トラックが入ってきた。開通も間もないであろう。夜、ヨーロッパ・グループの野外お別れパーティーが賑やかだった。

▼雪と氷のゴザインクンド



・4/21. 不気味な深い浸食道を下って2時間、バツティから千段もの高い石段が続いて膝の泣き笑いから怒りに変わる。ダムの流水管に沿ってシングルリッジ (1350m) バス停に着く (3時間)。カトマンズまで13km。24日間の旅を終える。

マルシャンディ・M・Hの白いルームと白い敷布が眩しい。心配した高血圧も糖尿も膝痛も大丈夫だった。ブラボー！さあ、明日からゆっくり、西ネパールを考えよう。

東京新聞の本

登山のオールラウンド情報誌



毎月15日発売 (送料別) 定価670円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。

直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からとお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。

郵送料は通常号116円、特大号124円です。年間購読料は8,480円で送料は当社負担です。お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

■第1特集

- 1月号★アイゼン、輪かん、スキー
タイプ別雪山山行
- 2月号 自然案内人と山を歩こう
山をもっと味わうために
- 3月号★全員集合/山スキーフリーク
- 4月号 自然の源・針葉樹と広葉樹、
照葉樹の森を歩く
- 5月号★GWに楽しむ山
雪稜・新緑そして花の山
- 6月号 北海道の山と人
日高、大雪山、知床をめぐる
- 7月号★読者がつくる夏山プラン
ファミリー賛歌
- 8月号 湿原の山旅
地図で探したとっておきの池浦
- 9月号 私の好きな山小屋
近郊の山から北アルプスまで
- 10月号★HOW TO 紅葉の山を味わう
撮る、描く、遊ぶ
- 11月号 ローカル線の山旅
徹底ガイド付き
- 12月号 実践/雪山へのいざない
(入門編)

(★は特大号となります)

■特別企画

- 1月号 「僕でも登れる？」
——冬のハケ岳を楽しむ
- 2月号 「僕でも登れる？」
——アイスクライミングに挑戦
- 3月号 「僕でも登れる？」
——尾瀬で山岳スキーに開眼
- 4月号 「僕でも登れる？」
——これぞ岳人、春雪の西穂高
岳へ(12回完結)
- 5月号 「アルプス・ツェルマット研究」
- 6月号 「モンブラン一周トレッキング」
- 7月号 「花のアルプス・ハイキング」
- 8月号 「ドロマテの岩塔に遊ぶ」
- 9月号 「南米ロライマ山にロストワ
ールドを訪ねる」
- 10月号 「ニュージーランド——手付か
ずの自然を楽しむ」
- 11月号 「海外トレックの王道・エベ
レスト街道に行く」
- 12月号 「冬の北米、アウトドアライフ
最新事情」

東京新聞出版局 (中日新聞 東京本社) 〒108 東京都港区港南2-3-13 ☎(03)3740-2674
書店で発売中。中日新聞販売店でも取りつぎます。

地域ニュース

《ブータン》

ドゥルック航空増便

ドゥルック航空が2月下旬から、ブータン～インド間の航路に二便増発することになった。

2月21日にパロ～デリー間が、24日にはカルカタ～パロ便が就航する予定である。

(KUENSEL 2月10号)

《ネパール》

登山料など改定

ネパールの新聞によれば、ネパール政府観光省は、1996年3月1日から、登山料や一隊あたりの入山者数、メンバーの変更などについて、下記のように改訂することになった。

記

1. 適用開始日：1996年3月1日
2. 登山料：

	7名まで	8名から12名まで
サガルマータ	50000 \$	10000 \$ / 一人追加ごと
〃サウスコル	70000 \$	10000 \$ / 一人追加ごと
8000m峰	10000 \$	1500 \$ / 一人追加ごと
7501m～	4000 \$	500 \$ / 一人追加ごと
7001m～	3000 \$	400 \$ / 一人追加ごと
6501m～	2000 \$	300 \$ / 一人追加ごと
6500m以下	1500 \$	200 \$ / 一人追加ごと

3. 一隊最大12名までとする。
4. メンバーの変更については、隊長は認めない。隊長以外は自由である。
5. 登山ルートの変更については、サガルマータはサウス・コル経由のルートの場合は登山料支払い後は、10000 \$ の追加料金を徴収。サガルマータ以外の山の場合は、登山料の25%を徴収する。
6. 辺境地域でポピュラーでない山の場合は、春、夏、冬のシーズンの場合のみ、登山料について交渉することが出来る。
7. 一山、一シーズン、一ルートに複数隊に許可

する。

[注] サガルマータのサウス・コルを經由して南東稜を登る場合は、7人までは7万ドル必要。10人の場合は10万ドルが必要。

《インド》

サセル・カンリ I 峰遭難続報

総員44名から成るB・S・F隊（隊長S・C・ネギ）は7月6日デリーを立ち、8月25日アタックキャンプを設営。翌日アタックするため多数の隊員がこのアタックキャンプに集結したが悪天候が続いたため、27日副隊長S・D・トーマスはC₃に下降することに決定し、メンバー全員が下降し始めたが、雪崩に遭い13名が死亡。現地に駐屯している陸軍の支援を受けて搜索の結果8遺体は発見したものの残る5名は発見できなかったが、死亡したものである。

このサセル・カンリ隊の遭難事故は、インド・ヒマラヤにおける山岳遭難としては最大のものである。

ギャは依然として未踏峰

昨年8月28日、H・S・Dhillon 率いるインド陸軍隊が、スピティのギャ（6,794m）に初登頂したと発表した。その後の調べで同隊は谷をへだてたギャガー（6,400m）に登頂した事が判明した。同峰は1987年にハリシュ・カパディア隊が初登頂し、今回は第二登となる。

ギャは依然として未踏のまま残されている。

トピックス

日山協主催第34回 海外登山研究会開れる

日本山岳協会が主催する「海外登山研究会」も34回を数えた。今回は、2月17日と18日の2日間にわたって八王子にある大学セミナーハウスを会場に約70名が参加して行われた。

今回のメインテーマは「カンチェンジュンガ」である。1955年イギリス隊によって初登頂されて

から40周年に当ることを記念したもの。

講師には、1980年山学同志会隊の坂下直枝氏、81年HAJ隊から山森。84年JAC隊から重廣恒夫氏、91年東面HAJ隊から尾形好雄氏、95年ガイヤ隊から小西浩文氏、特別参加として89年に完全縦走を成し遂げた旧ソ連隊からカザフの2名が招かれた。

坂下氏は、無酸素で新ルートの北壁を登ったのではあるが、既に欧米の登山家達が、少人数やアルパイン・スタイルによる登山を実践していた時期に、シェルパを雇用したり、固定ロープを張ったりするなど、従来の登山の延長であったことを反省。この頃が日本の高所登山のターニング・ポイントではなかったか、と指摘した。

山森は、無名の岳人でも、情熱を持続することができれば、目的を貫き通すことができると、5年間縦走にこだわり続けたことを報告。

重廣氏は、縦走登山が76年ナンダ・デヴィ縦走の延長線にあったことを報告。

尾形氏は、東面側からのカンチこそHAJの念願であり、その夢を10年経た後に、合同という形で実現できたことを、シッキムの山々のスライドをまじえて報告。

小西氏は、あくまでも少人数、無酸素を続けて行きたいと報告。

カザフのメンバーは、過去の隊の資料を参考に万全の構えで完全な縦走が成し遂げられ、縦走メンバー決定は大変だったことを報告。

翌日にも、講師達がそれぞれのカンチを語り、ツイング、シニオルチュ、ナンガ・パルパット、ブロード・ピーク縦走の登山報告を行った。

Books

中国チベット学書目

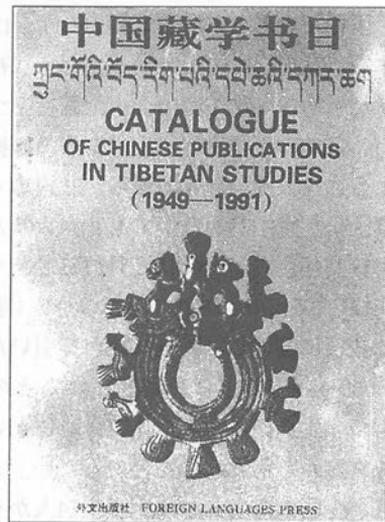
「チベット学書目」が外文出版社から出版された。同書目には、1949年から1991年までに中国の出版社約200社が出版した書籍が収録され、合わせて1,497種ある。

これは、中国で初めて出版された大型のチベット学書目で、新中国成立後の広範なチベット学研

究の収めた研究成果を全面的、系統的に具現し、チベット学研究者およびチベットに関心を寄せる読者に極めて便利なものである。

同書目は、16折り判で、漢語、チベット語、英語という3種の文字で印刷され、上製本と並製本があり、チベット学研究刊行物参考目録の付録もついている。

問い合わせは、中国国際図書貿易総公司
北京市車公莊西路35号



カイラスブックス文献目録

チベットに魅せられた滋賀の鷺坂健一氏が、「カイラスブックス」という通信販売による古本屋をはじめた。その文献目録の第1号が、昨年8月に発行された。内容は、ケサル、イ族、トンパをはじめチベット語図書やタンカ図版と目録なども含まれている。

文献目録の問い合わせは下記まで。

〒521-12 滋賀県神崎郡能登川町猪子66-4

東陽荘7号 カイラスブックス

☎ 078-42-7763 (PM7～11時)

東京集会のお知らせ

3月の東京集会は、合同登山の目標の山であるガネッシュ・ヒマールを肴に歓談します。

日時 3月25日(月)19時

会場 HAJルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口)徒歩2分

中国の若者たちにも登山熱が…

22歳の大学生王濱さんは高校時代、クラスメートとよく自転車で北京の郊外へ出かけ、七、八日間キャンプしたことを思い出し、「そのころ、これがスリルの味だと思っていたが、だんだん満足できなくなった」と語る。三年前、彼は大学生登山クラブ—遠方山岳会に入り、昨年の夏、四人の仲間と四川省にある海拔5,588mの雪宝頂に登った。

現在、王さんのように余暇を利用して登山活動に参加する若者が増えてきている。90年代初めに北京大学が最初の大学生登山会—山鷹社をつくっていらい、各地の大学生も登山隊や野外探検隊をつくるようになった。昨年の夏も、北京の4つの大学生登山隊が登山し、なかでも北京大学と福岡大学の中日友好合同登山隊は8月17日、チベットにある海拔7,206mのニンチン・カンサ（寧金抗沙）峰の登頂に成功し、大きな注目を引いた。

海拔5,000m以上の山に二回登ったことのある清華大学の学生周衛丁さんは「できれば、いろいろスリルに富んだ活動にいどんでみたい」と言う。昨年八月、全国の有名大学の大学生14人からなる探検隊は広東省の丹霞山で野外調査をおこない、大量の地質地形、動植物資源の貴重な資料を手に入れた。また、各大学の36名の選手が重慶市で行われた野外生存競技に参加した。この競技は炎熱下の長距離競走、素手のクライミングなどを競うもので、優勝者に「鉄人」の称号が授けられた。

若者はスポーツに興味をもっているが、もはや球場や陸上競技場などでの競技だけに満足せず、野外のスリルを求めるものが増えてきている。大学生の徐曉明さんは「室内スポーツより、登山の

ほうが冒険的、刺激的であり、大自然と一体になることができる」と言う。

北京理工大学の孫平さんは「登山はただ一つの山を征服することでなく、山の友達になることです」と語る。清華大学の学生は「クリーン登山隊」をつくり、山に登る途中、前の登山家の残したゴミなどを集めたりしている。

王振華中国登山協会総コーチは、「これらの若者はよく苦しみに耐え、連帯感が強いが、技術がまちまちである。だが、山登りは余暇のスポーツ活動を豊かにするだけでなく、中国の登山運動に厚い予備力を提供している」と語っている。中国登山協会は大衆の登山活動の指導もおこない、アマチュア登山者に技術相談や必要な器材を提供している。

チョモランマ峰に三回登山したことのある王氏は「登山は危険をとまなう、無計画、無組織的な登山は避けるべきだ」と忠告する。一昨年八月、あるアマチュア登山隊が青海省にある海拔6,000m以上のムネチン（阿尼瑪卿）山の登頂をめざしたが、準備不足のため、二人が遭難した。王氏によると、アマチュア登山活動の管理を強化するための法規—「大衆登山管理規則」が近いうちに公布されるという。

中国登山協会は登山学校を設立し、より多くの人に野外探検知識を普及させることにしている。一部の大学生は野外活動を科学調査、スポーツ、社会調査と結びつける全国的なアマチュア探検者クラブの設立を計画している。

（北京週報1996年第7号〔2月13日号〕より）



▲四川省、雪宝頂（5,588m）



▲チベット、ニンチン・カンサ（7,206m）

（ヒマラヤの山荘） 風来坊

ヒマラヤ風来坊 (Himalayan Hawa Ashram) と、命名された山荘が、森田千里さん (労山前会長・HAJ会員) によってインド、ヒマチャル・プラディシュのマナリ近郷約2kmのバシスト村に建てられた。会員制の山荘で、ホテルではないので十分なサービスは出来ないが、HAJ会員なら事前連絡を前提にして利用可能とのことである。

*所在地 P.O.&V. Vashisht, Distt, Kullu, Himachal Pradesh INDIA. TEL001-91-1901-3418 (直通・FAXも同じ)

*交通 (空路) デリーからクルまで1時間20分。現在ほぼ毎日4社が飛んでいる。(123\$) 空港から山荘までタクシーで約1時間半。(約500Rs)

(陸路) デリーの国内バスターミナルとジャパット通りのH.P.ツーリズム・オフィス前 (JAL事務所と同じビル) から直通バスでマナリまで約16時間。(500Rs) マナリから山荘へはタクシーで5分。(50Rs) H.P.Tourism Hot Springで下車、徒歩3分。

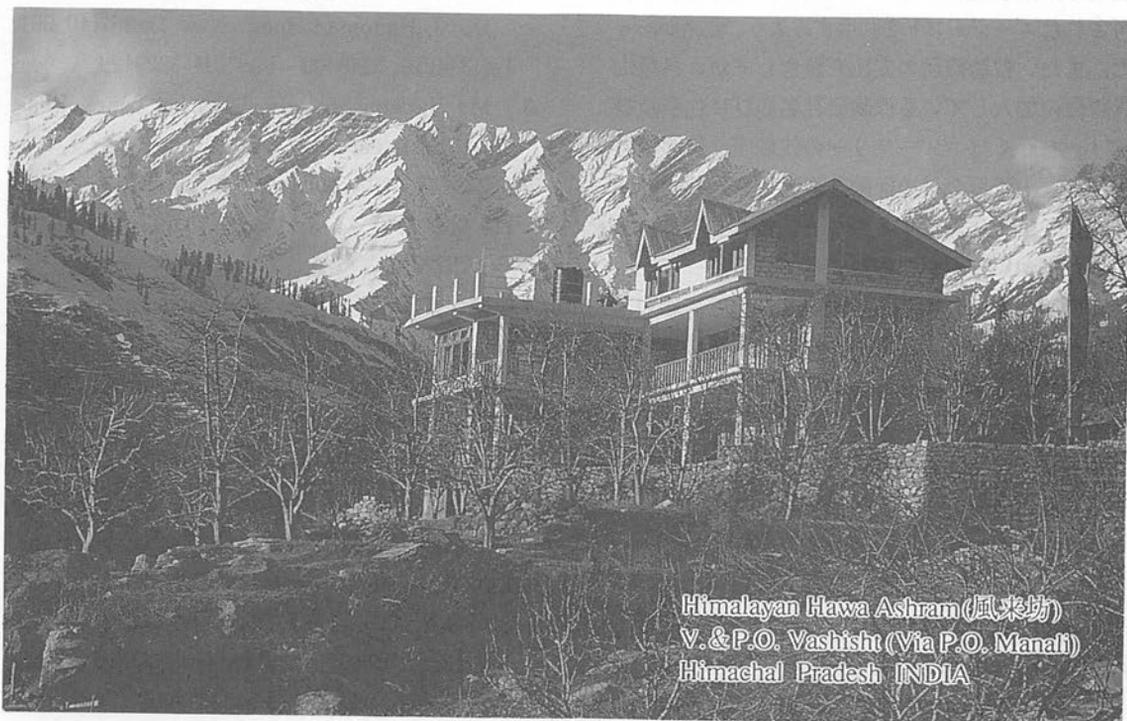
*規模 ツインベッドルーム6室、大部屋5室、全トイレ、シャワールーム付き。



*その他 近くにコンチネンタル、イタリアン、インド等のレストランがあるので食事の心配はない。希望する人には、ホテル・民宿の紹介や、トレッキングコース案内、ガイド・ポーター・馬・車・レンタル装備の紹介もできる。また徒歩3分の所に州営の温泉がある。

*…みどころ ロータン・パス (3980m) まで約1時間半。雪峰、氷河、高山草原、青いケシ、冬はスキーが楽しめる。また、中国 (チベット) 国境も近く、スピティ、ラダック方面の秘境トレッキングも楽しめる。

*連絡先 真藤健一 ☎ 3980-2881



Himalayan Hawa Ashram (風来坊)
V. & P.O. Vashisht (Via P.O. Manali)
Himachal Pradesh INDIA

パキスタン登山に朗報（推せん状不用）

過日開かれた日山協主催の第34回海外登山研究会の「最新情報」のコーナーで、パキスタンの説明を行った廣島三朗同海外登山常任委員は、現在のパキスタン登山許可取得の手続きについて、概要以下のように話された。

1) パキスタン本国の観光省（スラムバード）へ直接登山料を支払い、登山申請する場合は、従来の日山協の推せん状は不要である。

この場合は、隊長名と予定人数で仮予約〔A〕となり登山隊が出発する3ヶ月前までに、全隊員の入った正式申請書を送る〔B〕

日本隊を除く諸外国は、直接パキスタン政府観光省か大使館へ申請書と登山料を払い込んで許可を待つ。

2) 在日パキスタン大使館経由で、登山許可申請

を行う場合は、従来どおり〔日山協〕発行の推せん状を添付しなければならない。この部分の許可申請書も、最初は隊長名と予定隊員数だけの〔A〕でよく、出発3ヶ月前までに全隊員の入った〔B〕を送ればよい。

〔編注〕〔A〕と〔B〕とは、AnnexureのAとBで、Aは登山申請書、Bは登山隊長及び隊員の詳細のことである。

なお、同氏は席上、パキスタン政府あての登山申請書を直接霞ヶ関の外務省へ持参したケースがあったことを紹介された。これは全くの間違いでパキスタンの登山申請書は、パキスタン大使館に持参しなければならない。ちなみに大使館は、

〒106 東京都港区元麻布2-14-9（地下鉄日比谷線広尾下車徒歩10分）☎03-3454-4861

インド・ヒマラヤ登山手続き情報

1996年にインド・ヒマラヤを目指している登山隊に昨年12月付でIMFから届いた連絡によると、登山隊は諸手続きをスムーズに進める為にIMFに認可されたエージェントを利用するよう、要請があった。また、救助費用の支払を懸念してか、各登山隊隊員の加入している保険会社名並びに住所及びデリーもしくはニューデリーの代理店、保険証券番号、登山隊員全員の保険証券番号や保険会社の連絡先をIMFに連絡する事など、これまではなかった細かい指示がなされてきている。

このリストは今年訪印予定の全登山隊に届いているわけでもなく、詳細がわからず現在IMFに問い合わせ中である。なんらかの情報をお持ちの方はご一報願いたい。

参考までにIMFから送付されてきた認可されている36社のエージェント名を列記しておく。

IMF公認エージェント

1) Capt Alok Chandola Chief Executive Officer, Abercrombie & Kent (I) Pvt Ltd,
Ground Floor 1 & 2 Chiranjiv Tower 43

Nehru Place, New Delhi-110 019.

Tel:6436207, 6434417 Fax:011-6444966

2) Mr. Rajiv Kaul Artou Voyages Pvt Ltd.,
13/3, Hanuman Road. New Delhi-110 001.
Tel:344215, 3348409 Fax:011-2229129.

3) Ms. Sapana Sharma, Director Tours, Bhagirathi Adventure Tours Pvt Ltd.,
24/17, Old Rajinder Nagar New Delhi-110 060
Tel:7527547

4) Mr. P.D. Sharma, Managing Partner, Crystal Holidays,
B-601, Ansal Chamber-I 3, Bhikaji Cama Place New Delhi-110 066
Tel:6836909, 6886122 Fax:011-6886122

5) Mrs. P.M. Singh Chairman & Managing Director, Delhi Tourism & Transportation Development Corporation Ltd.,
18-A, DD・SCO Complex, Defence・Colony, Post Box No. 3613, New Delhi-110 024.
Tel:698431, 4623782 Fax:4510500

- 6) Mr. Sushir Dahiya, Managing Director, Essdee Travexpress Pvt Ltd., 106, Humayun Pur, II nd Floor, New Delhi-110 029. Tel:6875433 Fax:011-6875433
- 7) Mr. Sanjay Basu, Managing Director, Par Horizon (Tours) Pvt Ltd., B-209, Chittranjan Park. New Delhi-110 019. Tel:621222, 6227625 Fax:91-11-6479320
- 8) Mr. Sanjiv, Saran, President High Points Expeditions and Tours. 39, Paschimi Marg, Vasant Vihal New Delhi-110 057. Tel:601224, 605849 Fax:011-6884797
- 9) Capt K.J Singh, Managing Director, Himavat, Camps & Tours Pvt Ltd. 11, Post Office Road, Clement Town, Dehradun-249 002 (U.P.) Tel:91-135-24487, 27748 Fax:0135-28392
- 10) Sh: Mandini Lohia Director (Sales), M/S Hepana Tours (I) Pvt Ltd., B-2/2190 Vasant Kunj New Delhi-110 070. Tel:011-6893455 Fax:011-6893455
- 11) Mr. K.K. Basu, Proprietor & Chief Executive, Ideas' Coll. Flat No. A-13, Shubham Apartment 37, Patparganj, I.P. Extension, New Delhi-110 092. Tel:2423464, 2423468 Fax:011-5753939
- 12) Mr. Mandip Singh Soin. Managing Director, Ibex Expeditions Pvt Ltd., G-66, East of Kallash, New Delhi-110 065. Tel:632641, 6828479 Fax:011-6846403
- 13) Lt. Col Vijay Chadda General Manager, Ind Travels, 241-243, Somdatt Chambers-II 9, Bhikaji Cama Place New Delhi-110 066 Tel:6884250 Fax:011-6885720
- 14) Dr. Siddig Wahid, International Travel House, 14A&B, Community Centre, Basant Lok, Vasant Vihar, New Delhi-110 057. Tel:6034001 Fax:011-6876101, 6887163
- 15) Ms. Nandini Verma, Senior Vice President, Jetail Tours Pvt Ltd., C-28, Prem House, Connauht Circus, New Delhi-110 001 Tel:3321292 Fax:011-3328593
- 16) Mr. Kai L. Suri Managing Director, Kai Travels Pvt Ltd., A-312-314, Kai Suite, Ansal Chamber-1, 3, Bhikaji Cama Place, New Delhi-110 066 Tel:6887530, 678544, Fax:011-6883155
- 17) Col. N. Kumar, Mercury Himalayan Explorer Jeevan Tara Building, Parliament Street, New Delhi-110 001. Tel:312008, 351403 Fax:011-3732013
- 18) Mr. Namgyal Sherpa M/S Namgyal Treks & Tours P.O. Box 75, Tibet Road, Gangtok 737 101, Sikkim. Tel:23701 Fax:91-3592-23067
- 19) Mr. K.K. Gupta, Managing Director, Paradise Tiur Company (I) Pvt Ltd., 20-B, Basant Lok Community Centre, Vasant Vihar, New Delhi-110 057. Tel:606712, 678597. Fax:6875112.
- 20) Mr. B.K. Gupta, Peak Adventure Tours Pvt Ltd., B-29A, Kailash Colony, New Dehi-110 048 Tel:6432894 Fax:6440866
- 21) Mr. Neelam K. Thakur, President Quest Adventure Tours, 25, Chaudhary Market, Sultanpur, Mehrauli Road, New Delhi-110 030 Tel:6802650, 6801560 Fax:011-6801560
- 22) Mrs. Sharda Joginder, Managing-Director, Quest Tours Pvt Ltd., 108, Antriksh Bhawan, New Delhi-110 001. Tel:3317738 Fax:011-3325993
- 23) Ms. Rani Puri, Director, Ruck Sack Tours Pvt Ltd.,

- B-45, Som Datt Chambers-II, 5, Bhikaji Cama Place, New Delhi-110 066
Tel:673717, 6883696 Fax:011-6874377
- 24) Mr. Sanjay Razdan, Director Razdan Travel Service Pvt Ltd.,
M-6, Magnum House No. 1, Karampura Commercial Complex, New Delhi-110 015
Tel:536463, 5467019 Fax:011-5459190
- 25) Mr. Ajeet Bajaj, Managing Director, Snow Leopard Adventures,
9174, Sector-C-9, Vasant Kunj New Delhi-110 070
Tel:6898654 Fax:011-6895905
- 26) Mr. Rajinder Raina, Managing Director, Sea & Sky Travel (I) Pvt Ltd.
90/60 Malviya Nagar, New Delhi-110 017.
Tel:6461027, 6476452 Fax:011-6426248
- 27) Capt Swadesh Kumar, Managing Director, Shikhar Travels (I) Pvt Ltd.
209, Competent House, F-14 Middle Circle, Connaught Circus, New Delhi-110 001.
Tel:3312444, 3312666 Fax:011-3323660
- 28) Mr. Avinash Anand, Joint Managing Director, Sita World Travel (I) Pvt Ltd.
4, Malcha Marg, Shopping Centre Diplomatic Enclave, New Delhi-110 021.
Tel:3011122 Fax:011-3010123
- 29) Shri I.V. Hariharan Director, Swagatam Tours and Travels Pvt Ltd.,
401 Keltran Chambers, 18/7 Arya Samaj Road, New Delhi-110 005.
Tel:5744500 Fax:91-11-5752776
Tlex:81-31-77026
- 30) Mr. Rufus Mitchell, Regional Manager, Trade Wings Limited
60, Janapath, New Delhi-110 001.
Tel:3321822, 3321623 Fax:011-3324005
- 31) Mr. A.C. Kohli President, Wild Life Adventure Tours,
606, Akashdeep, Bharakhamba Road, New Delhi-110 001.
Tel:3326381, 3323743 Fax:011-3312984
- 32) Mr. Harash Vardhan, Director, World Expeditions (I) Pvt Ltd.,
M.G. Bhawan-1, Ground Floor 7, Local Shopping Centre, Madangir, New Delhi-110 062
Tel:6483358 Fax:011-6483357
- 33) Mr. Deepak Fotedar Sr. Tour Executive, Welcome Travels,
405 Skipper Corner, 88 Nehru Place, New Delhi-110 019.
Tel:6424638, 6416509. Fax:91-11-6443037
- 34) Shri M.L. Tickoo M/S Kash Venture Travels 509 Ansals Kirti Shikhar,
District Centre Janakpuri, New Delhi-110 058
Phone:5523807 Fax:91-11-5534003
- 35) Ms. Manjul Bery Eternal India Travels Pvt. Ltd.,
Flat No.114, Hemkunt Chambers 89 Nehru Place New Delhi-110 019
Telephone-6213874, 6469910
Fax:91-11-6463547
- 36) Shri Ashok Koul Snow Lion Expeditions Pvt, Ltd.,
512-B-Kirti Shikher District Centre Janakpuri, New Delhi-110 056
Tel:5524389, 5530153 Fax:011-5530153



1996年インドの祝祭日

期 日	名 称	内 容
☆1/1(月)	New Year's Day	元旦
1/15(月)	Makara Samkranti/Pongal/Makradi Snana	太陽が北半球に入る。
1/24(水)	Vasant Panchami/Sri Panchami	春の始まりを祝う北東インドの祭り、サラスワティ女神を祀る。
☆1/26(金)	Republic Day	1950年インドが共和国となった記念日。
2/17(土)	Maha Shivaratri	シヴァ神が祀られ、信者は1日断食する。
☆2/21(水)	Idu'l Fitr	ムスリム断食月ラマダンの終り。
3/5(火)	Holi	クリシュナ神を祀る。人々は年齢、カースト、宗教を問わず、色水をかけあう。
3/22(金)	Gangaur	ガウリ女神を祀るラジャスタンの祭り。
☆4/1(月)	Mahavira Jayanti	ジャイナ教開祖マハビーラ生誕祭。
☆4/5(金)	Good Friday	キリスト受難祭。
4/13(土)	Vaisaki	ヒンドゥ暦の元旦。パンジャブ地方の祭。
☆4/29(月)	Idu'z Zuha	予言者アブラハムが息子を生贄にした記念。
5/3(金)	Buddha Purnima	釈尊生誕祭。
☆5/28(火)	Muharram	ムスリム、シーア派の哀悼の儀式。イスラム暦の新年。
7/17(水)	Car Festival/Ratha Yatra	オリッサ、ベンガル、グジャラート、タミルナドゥでジャガンナート神を祀る。
☆7/29(月)	Milad-un-Nabi	予言者モハメッドの生誕祭。
☆8/15(木)	Independence Day	独立記念日(1947年独立)。
8/27(火)	Onam	ケララの収穫祭。
8/28(水)	Raksha Bandhan	ヒンドゥの姉妹達は兄弟達の手首に神聖な紐を結び悪から守る。
9/4(水)	Janmasthan	クリシュナ神生誕祭。
9/16(月)	Ganesh Chaturthi/Vinayak Chaturthi	学問と繁栄の神ガネーシュを祀る。
☆10/2	Gandhi Jayanti	マハトマ・カンディ生誕記念日。
10/19(土)	Durga Puja/Dussehra	ラーマ神が魔王ラーバナに勝った事を祝う。
~☆21(月)		ベンガルではドゥルガ女神を祀る。
☆11/10(日)	Diwali	ヒンドゥ教徒の新年。ヴィシュヌの妃神、富の女神ラクシュミーを迎える光の祭。
☆11/25(月)	Guru Nanak Jayanti	シーク教開祖ナナク生誕祭。
	Pushkar Fair	アジメール地方プシュカル湖で開かれるラクダ市
☆12/25(水)	Chistmas Day	キリスト生誕祭。

インドは太陰暦のため祭りの日は毎年変わる。

☆は在日インド大使館は休日となる。

■ 寸 感 ■

アルペンスキー男子の部で、ワールド・カップに5度も総合優勝し、2月21日アルペンスキー世界選手権でも逆転優勝したルクセンブルグのマルク・ジラルデリが、この春にシシャパンマに登り、スキーで滑降する計画を発表した。

山の世界では、最大酸素摂取量の多さが強さの一つの目安となっているが、さりとてマラソンの瀬古選手が、エヴェレストに挑戦しても、必ずしも岳人よりも強さを発揮できるとは限らないだろうとみられている。

はたしてジラルデリは、どのような形で登頂し、どこからの滑降に成功するのであろうか。

(山森)

事務局日誌(2月)

- 3日(土) 日本勤労者山岳連盟交流の夕べ(代々木。遠藤、酒井、山森)
6日(火) ムスターグ・アタ決定通知(北條)
9日(金) ヒマラヤ291号発送

合同登山隊の資料を8名に送付

- 12日(日) ムスターグ・アタ決定通知(佐藤)
15日(木) IMFに96年ヌン峰取消料送金
16日(金) 韓国、朴氏ヘチョゴリ資料送る
17日~18日 日山協海外登山研究会(八王子。山森、尾形、中川)
21日(水) プラブーツ懇談会(JAC。山森、中川)
26日(金) 東京集会(16名)

ヒマラヤ No.293 (4月号)

平成8年3月10日印刷 8年4月1日発行

発行人 稲田 定重

編集人 山森 欣一

発行所 日本ヒマラヤ協会

〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7

萬栄ビル501号

電話 03-3988-8474

郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



高山病対策の必携品

ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

●ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)

●パルスオキシメーター

(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。



マウンテンラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号

遙かなる旅



個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク



キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手伝い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山
シルクロード・秘境旅行
のパイオニア



株式
会社

西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)1391(代表)

キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)8384(代表)

大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(367)1391(代表)

カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU, NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店/〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店/〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店/〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア一館/〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店/〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店/〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店/〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店/〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店/〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブライカ店/〒950 新潟県新潟市天神1-1 ブライカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店/〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店/〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店/〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店/〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店/〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店/〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店/〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メールオーダー)/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所/〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004